

物流イネーブラーとして地域・社会に貢献します。



苫小牧埠頭株式会社



PR動画をご覧ください
<http://www.tomafu.co.jp>

苫小牧埠頭株式会社

会社案内

苫小牧港発の飽くなき挑戦

北海道の産業と暮らしを支える北の物流拠点

苫小牧港は、1963年に開港した世界初の内陸掘込港湾の西港区と、1980年に開港した東港区からなり、1981年には国際拠点海上輸送網の拠点として「国際拠点港湾」に指定されています。現在は、内貿取扱貨物量が全国一、道内港湾貨物の半数以上を取り扱う北日本最大の港湾に成長しました。苫小牧港長期構想(2019年3月策定)では、苫小牧港の将来を目指す姿として「北海道スマートポート～国内物流の効率化を先導する港～」、「北海道フードポート～北海道の「食」を世界へ届ける港～」、「北海道レジリエンスポート～道民・国民の命と暮らしを強くしなやかに守る港～」を提示しています。また、苫小牧港カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画(2023年3月策定)では、港湾地域内や出入する船舶・車両から排出される温室効果ガスの排出をゼロにする取組を計画し、関係機関と連携して着実に実施することで、我が国全体の脱炭素社会の実現に貢献することとしています。



物流企業としての歩み

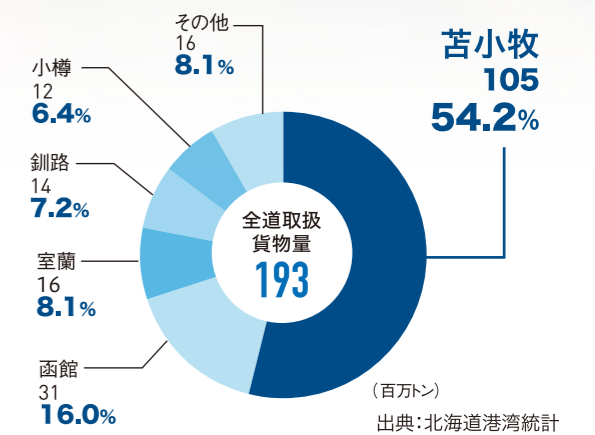
当社は、開港後の苫小牧港の貨物輸送需要に対応すべく倉庫業、港湾運送業を担う会社として1960年に設立されました。設立趣意書には、「その公共的使命を深く認識の上、理想的取り扱い施設を整え、貨物の積降、荷捌き及び保管等の事業を行い、もって北海道並びに日本経済の伸長に寄与したい」と設立目的を謳っております。苫小牧港開港と同じ1963年に倉庫、港湾運送の営業を開始しました。1970年に穀物サイロ事業を開始し、穀物サイロや飼料専用倉庫で飼料原料の保管や加工を行っています。1974年に灯油等の石油製品を貯蔵するタンクを設置し、現在は苫小牧と石狩とでオイルターミナル事業を運営しています。2020年に、苫小牧東港において「北海道クールロジスティクスプレイス(温度管理型冷凍冷蔵庫)」の営業を開始し、本施設を中核施設として、食産業の高付加価値化、道産品の輸出拡大に貢献するための取り組みを進めています。苫小牧の他にも道内外に拠点を構えて物流ネットワークを形成し、北海道の産業の発展に貢献しています。

時代の先を見据えた挑戦

我が国・北海道の人口減少・働き手不足、気候温暖化とカーボンニュートラルに向けた取り組みの加速、DX・AIの進展など、当社をとりまく環境は今後大きく変化することが予想されます。当社は、物流を知るプロフェッショナルとして、外部環境の変化に対応しながら、従来の枠組みにとらわれない新たな価値の創造への挑戦を積み重ね、北海道の食と農業の発展や、脱炭素・循環型社会の実現につながる分野を中心に、物流機能の川上・川下に事業領域を広げつつ、北海道および日本経済の持続的な発展に貢献していきます。



北海道港湾取扱貨物量のシェア(2021年)

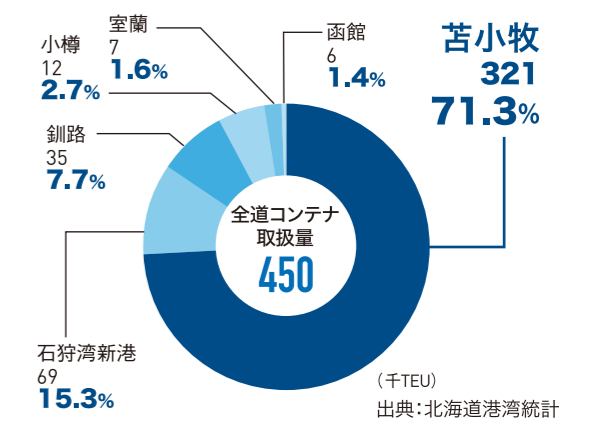


主要港湾取扱貨物量の推移

順位	2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	港湾名	トン数	港湾名	トン数	港湾名	トン数	港湾名	トン数	港湾名	トン数
1	名古屋	196	名古屋	197	名古屋	194	名古屋	169	名古屋	178
2	千葉	153	千葉	153	千葉	140	千葉	134	千葉	135
3	横浜	113	横浜	114	横浜	111	苫小牧	100	横浜	105
4	苫小牧	109	苫小牧	107	苫小牧	107	横浜	94	苫小牧	105
5	北九州	102	北九州	102	北九州	99	北九州	88	北九州	96

出典:国土交通省港湾統計 (百万トン)

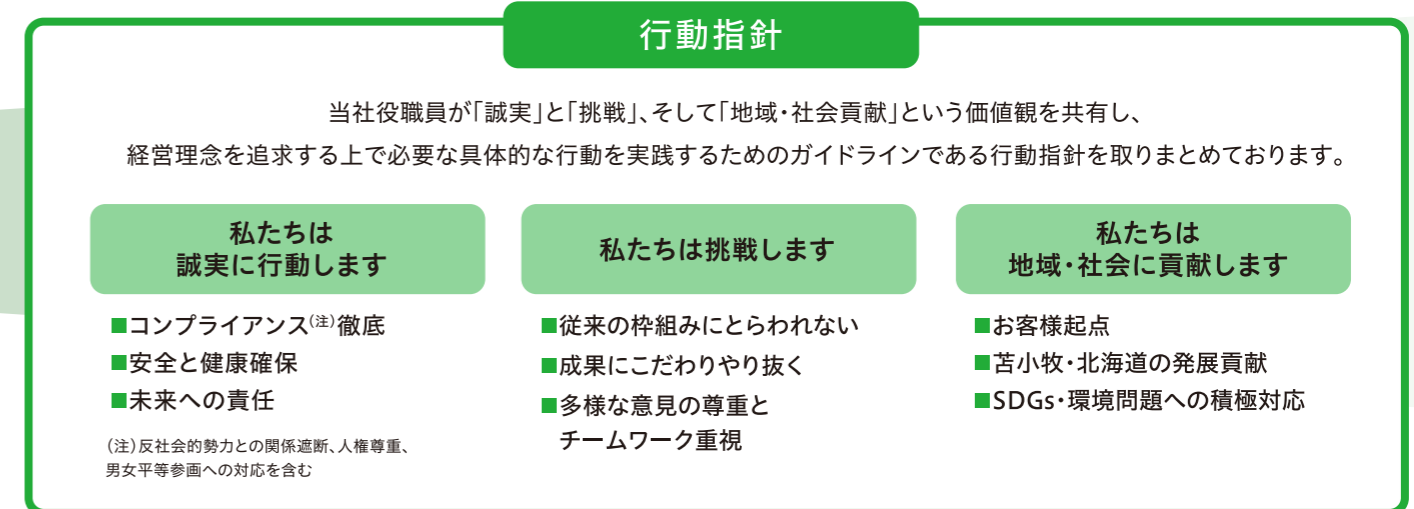
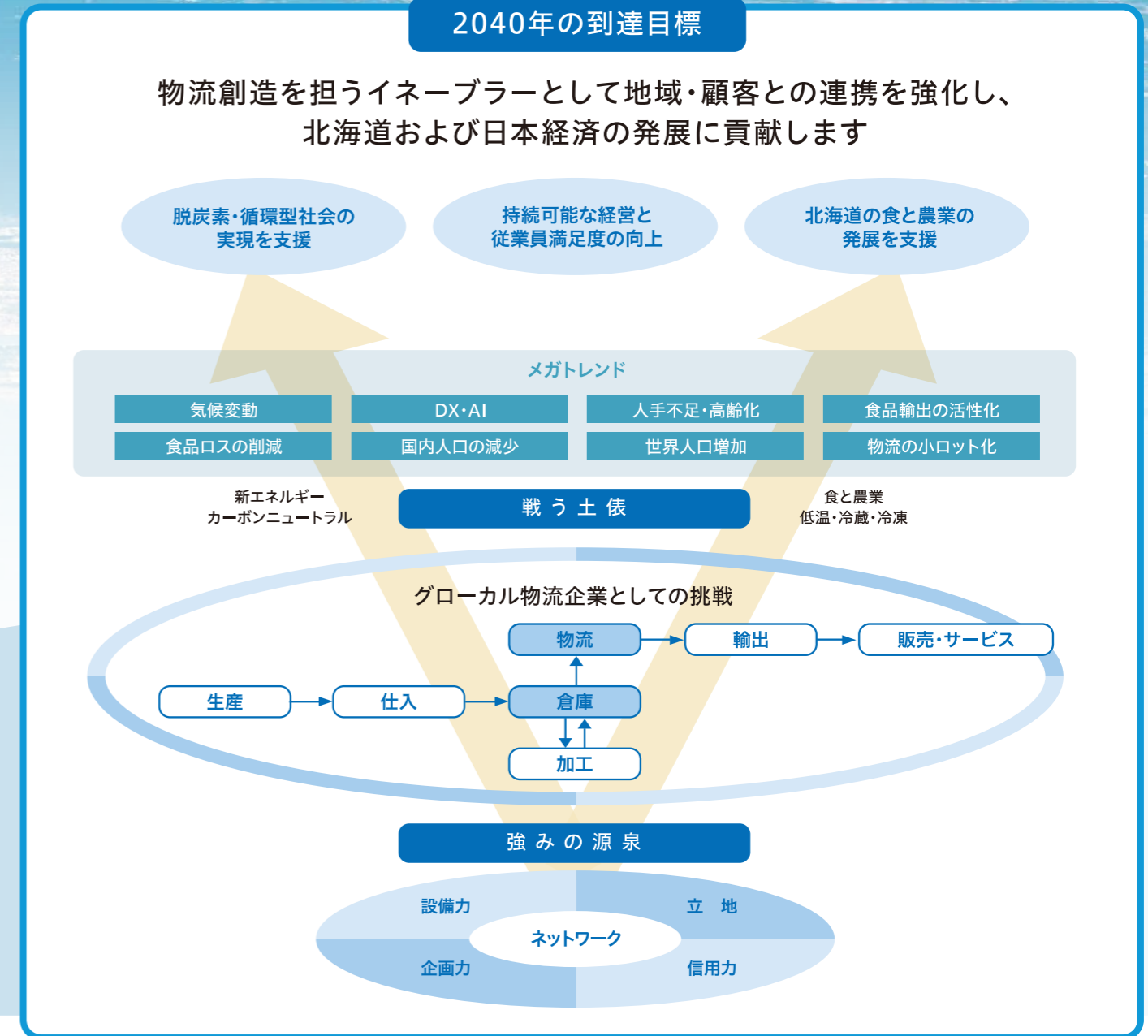
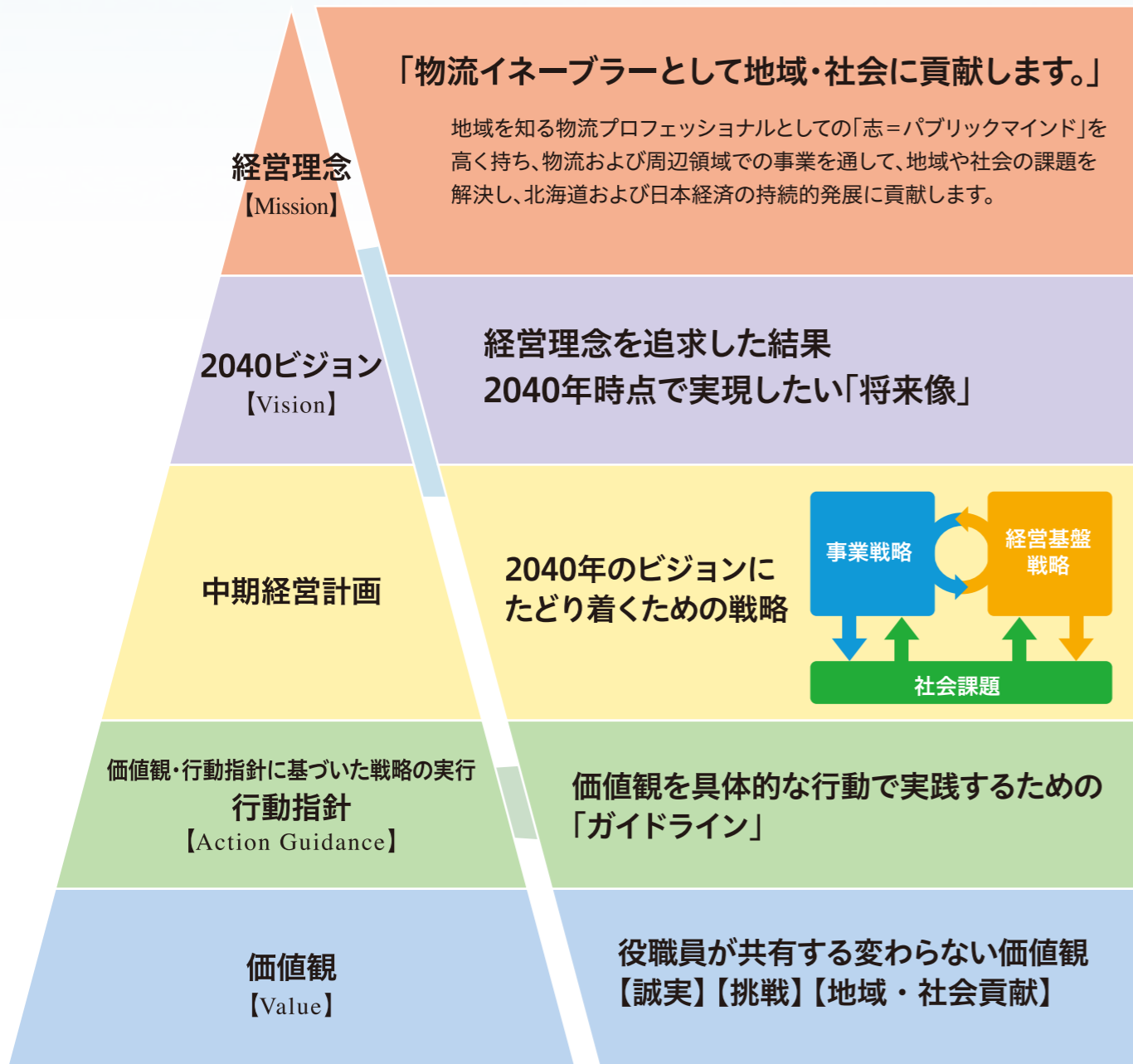
北海道港湾コンテナ取扱量のシェア(2021年)



物流イネーブラーとして 地域・社会に貢献します

※イネーブラー：地域・顧客の発展や課題解決を可能とする上で不可欠な存在。線の下力持ち。

1960年の設立以来、日本有数の港湾である苫小牧港を中心に北海道の産業・生活に不可欠な重要物資を取り扱って参りました。今後、外部環境の大きな変化が見込まれる中、これまで培ってきたノウハウを活かしつつ、新領域への事業展開を目指すこととし、経営理念を「物流イネーブラーとして地域・社会に貢献します。」と定めるとともに、2040年のありたい姿として「2040ビジョン」を取りまとめました。



総合物流機能で 多様なニーズに対応します

当社は、お客様の荷物を「預かる」「運ぶ」だけでなく、AEO制度における認定通関事業者、特定保税承認者として迅速な輸出入サービスを提供するほか、産業や食、エネルギー等様々な分野の物流ニーズに包括的に対応し、お客様に最適な物流ソリューションをご提案します。

【AEO制度とは】貨物のセキュリティ管理と法令遵守(コンプライアンス)の体制が整備された事業者に対し、税関が承認・認定し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度です。2001年9月11日、米国で発生した同時多発テロ以降、国際物流においてはセキュリティの確保と円滑化の両立が不可欠となっています。



- 内航定期航路**
 - 太平洋側 / 八戸、仙台、常陸那珂、大洗、東京、川崎、名古屋、大阪
 - 日本海側 / 秋田、新潟、敦賀
- 外航定期航路**
 - 北米 / バンクーバー、シアトル
 - 韓国 / 釜山、蔚山、光陽
 - 中国 / 上海、寧波、青島、大連

保管

普通倉庫(常温、低温、燻蒸)、危険物倉庫(1類、4類)、冷凍・冷蔵倉庫(自動倉庫、移動ラック)の他、穀物サイロやオイルタンクを保有し、多様な貨物に対応しています。また、AEO制度における「特定保税承認者」の承認を受けております。

荷役

プラント・重量物や冷凍貨物船、パナマックス、オイルタンカーなどの本船荷役をはじめ、倉庫荷役、コンテナ貨物の取り扱いなど多種多様な荷役形態に対応しています。

輸送

定期航路日本一の苫小牧港を中心に、北海道と全国各地を結ぶ国内フェリー輸送を手掛けています。また、トラック・ダンプ・タンクローリー・カーキャリアなどの各種輸送モードを完備し、細かなニーズにお応えします。

通関

AEO制度における「認定通関事業者」として、税関への輸出入申告や各種手続、関税関係法令以外の関係省庁への貿易関係手続の代理・代行業務を行っています。

流通加工

輸入飼料原料の加工や、輸出用機械の海外向け梱包の他、さつまいもの洗浄選果作業も行っています。

事業を通じて最適な物流ソリューションを提案します



※所要時間と距離は自動車で高速道路を利用した場合です。※所要時間と距離は、出発点を苫小牧市役所近辺、到着点を各市役所に最も近い国道及び道道の交点とし、「北の道ナビ」ホームページで検索しています。

42

当社の普通営業倉庫 (1～3類)の棟数

当社の全事業所における普通営業倉庫(1～3類)の棟数は**42棟**。苫小牧地区では35棟を所有し棟数、収容面積ともに**シェア1位**となっています。貨物の特性に合わせて保管することができ、鋼材、木材、生活雑貨等の製品を保管する倉庫の他、庫内を13℃以下に設定して保管する低温倉庫、病害虫の駆除機能を有し、海外からの野菜や果物を保管できる低温燻蒸倉庫など、お客様のニーズに合わせた保管サービスを提供します。

港運事業部

多様な物資を取扱い、物流をトータルサポートします

施設概要

●普通倉庫	●低温燻蒸倉庫
苫小牧 66,444㎡	苫小牧 4,626㎡ ※植物防疫所指定燻蒸倉庫
千歳 4,113㎡	八戸 4,997㎡ ※植物防疫所指定燻蒸倉庫
石狩 3,118㎡	●危険物倉庫
仙台 4,152㎡	苫小牧 147㎡
●低温倉庫	●吹上上屋・テント倉庫
苫小牧 33,187㎡	苫小牧 27,047㎡
石狩 5,560㎡	
仙台 3,183㎡	
保税蔵置場(苫小牧地区) 94,901㎡	

車両保有台数 (グループ全体)

●トラクターヘッド 74台	●トレーラー
●各種トラック 27台 (タンクローリー、ミルクローリー他)	平車 77台
	ウイング車 134台
	冷凍ウイング車 6台
	20Fコンテナシャーシ 29台
	40Fコンテナシャーシ 57台
	その他 1台

物流のエキスパートとして最適な輸送を提供します

物流は変革の時期を迎えており、コンテナ貨物、大型重量物など多種多様な貨物の特性に沿った輸送プランの実現とCO2排出を低減する環境に配慮した輸送の実現が求められています。当社には豊富な経験と専門知識を持ったエキスパートがおり、当社の道内外に広がるネットワークを駆使して、お客様に最適な輸送サービスを提案し提供します。



迅速且つ正確な 通関サービスを提供します

当社は、貨物のセキュリティ管理と法令遵守の体制が整備された事業者として、AEO制度において認定された通関事業者です。専門スタッフが豊富な知識と経験で輸出入に関する手続きを迅速且つ正確に行い、お客様に最適なサービスを提供します。



北海道と世界を結ぶ 国際物流に貢献します

苫小牧港は、北海道全体の港湾取扱貨物量の約半分を取扱っており、コンテナ船や外国貨物船が寄港する国内有数の国際貿易港です。今後、さらにグローバル化の進展が見込まれるなか、当社の強みである「設備力」のほか、物流プロフェッショナルとしての知見を活用し、地域に不可欠な重要物資の国際サプライチェーンの効率化・安定化、需要創造に貢献していきます。



北海道の食と 農業の発展を支援します

当社は、気候変動に伴う農水産物の生産適地変化等に対応し、物流事業者として新たな道産品の取扱いに積極的に取り組むとともに、生産地の担い手不足に対応した選果事業や食品卸・食品加工等の新たな事業領域への展開により、北海道の一次産業に貢献していきます。



5

穀物サイロの収容能力は 北日本最大級

当社のサイロは全部で302本。トウモロコシ換算で190,150トンの収容能力を備えその規模は**日本全国でも5位**にランクインします。北海道で生産される約370万トン/年の配合飼料は3割にあたる約110万トン/年が当社設備を經由し原料として供給されています。当社は大規模な収容能力、様々な設備、豊富な経験で北海道の畜産業を支えています。

北海道配合飼料生産数量：
農林水産省HP(2019年～2022年平均)

Silo Logistics Dept.



飼料サイロ 事業部

北日本最大級の穀物サイロと設備で、
北海道の畜産業を支えます

施設概要

● 荷役設備			
アンローダ	3基	300t/h×1基、400t/h×1基、800t/h×1基(機械式)	
マテリアルハンドリング機	1基	400t/h	
トラック受入設備	4系統	100t/h×1基、130t/h×1基、300t/h×1基、400t/h×1基	
コンテナ卸設備	1系統	100t/h	
● 保管設備			
穀物サイロ	302本	190,150t ※保税蔵置場302本 (主サイロ176本156,420t、副サイロ102本28,930t、 大豆粕専用サイロ24本4,800t)	
飼料原料倉庫・加工場	11棟	46,642㎡ ※保税蔵置場合計面積 28,025㎡	



北海道最大の規模を誇る設備と 先進的なシステムで安定供給を実現します

飼料原料の多くは世界各地から大型船舶により輸入され、最大1,900トン/hの能力を有する荷役設備と190,150トン収容可能な穀物サイロ、46,642㎡の収容能力がある倉庫に保管されます。これら入出庫管理は、IT化され先進的な機能を有する指令室で行われ、豊富な知識と経験を持ったスタッフが安全且つ効率的なサービスを提供します。



飼料原料の品質管理を徹底します

飼料原料の物流に携わる事業者にとって貨物の品質管理は重要な責務です。当社サイロ施設に入庫・保管された飼料原料は温度測定・目視点検等を実施し、品質の異常や変化を素早く察知します。また衛生管理においても作業員の手指・靴底消毒の徹底、輸送車両の出入り口には大型車両消毒設備を完備し徹底した衛生管理に努めています。



多様な機能で お客様のニーズにお応えします

飼料も多様化し幅広いニーズに対応することが望まれます。サイロだけではなく、普通倉庫も備え、多様な品目、多様な荷姿への保管にも対応しています。また当社設備はコンテナやトラックでの受け入れの他、船積み設備も完備しております。保管場所としてだけでなく道内外への移出入拠点として、幅広い活用をご提案いたします。



● 出荷設備			
飼料工場送り	4系統	主・副原料100t/h、大豆粕50t/h	
トラック積	13系統	主・副原料100t/h、大豆粕80t/h	
内航船積込	1系統	240t/h	
● 流通加工設備			
飼料原料粉碎設備	3基	7t/h×1基、20t/h×1基、50t/h×1基	
ペレット加工設備	1基	10t/h	
自動袋詰設備	2系列	240袋/h×1系列、600袋/h×1系列	



80

当社が保有する 石油タンクの基数

当社のオイルターミナルは共同油槽所であるため、多くのお客様にご利用いただき、北海道におけるエネルギーの安定供給の役割を担っています。苫小牧、石狩ターミナルともに沿岸に隣接しプライベートバースを保有、**苫小牧に55基、石狩に25基**の貯油槽を完備しているため、効率的な石油製品の安定供給を実現し、北海道の産業・生活を支えます。



オイルターミナル 事業部

石油製品の安定供給を実現し、
北海道の産業・生活を支えます



石狩ターミナル

- 繫船・荷揚積設備
(プライベートバース)
-7.5m×140m(6,000DWT対応)×2
-7.5m×140m(5,000DWT対応)×1
(マリンローディングアーム)
ガソリン・灯油・軽油・A重油
- 貯油施設
貯油槽 25基 206,840kℓ
※保税蔵置場49基
- ローター出荷設備
10ステージ19車線
(他、ドラム缶専用1車線)
- 危険物倉庫
1棟 64㎡

最適なロケーションで 北海道の生活を支えます

札幌圏で使用される暖房用灯油は、道内需要の約6割にあたります。当社は、札幌から車で約1時間の苫小牧と札幌中心部から車で約30分の石狩にオイルターミナルを保有しています。冬期に道路事情が悪化しても、苫小牧又は石狩のどちらからでも灯油を確実に出荷することができ、多くの人々の生活を支えることに貢献しています。

豊富な知識と経験で 品質管理を徹底します

取り扱う石油製品は、冬期の北海道には欠かせない暖房用灯油のほか、ガソリン、軽油、重油、アンモニア、エチレングリコールなど10種以上にのぼります。石油製品によって管理方法が異なるため、豊富な知識を持ったスタッフが目視検査、臭気検査に加え、機器を使用した引火点検査、水分検査を行い、品質管理に努めています。

防災とBCPに万全を期しています

石油製品を取り扱う企業にとって、災害防止は最大の使命です。苫小牧ターミナルでは、周辺事業所と連携して共同防災隊を組織し、石狩ターミナルでは、当社単独で防災隊を組織しており、24時間の防災体制を整備しています。また、両ターミナルは非常用発電設備を有しており、災害による停電時においても物流機能が滞ることがない危機管理体制を構築しています。



苫小牧ターミナル

- 繫船・荷揚積設備
(プライベートバース)
-7.5m×130m(6,000DWT対応)×2
-5.5m×124m(2,000DWT対応)×1
(ドルフィン)
-7.0m×130m(5,000DWT X1/5) ×2
(マリンローディングアーム)
ガソリン・灯油・軽油・A重油・プロパン・アンモニア
(ホース)
ジェット燃料・アスファルト・エチレングリコール
- 貯油施設
貯油槽 55基 299,245kℓ
LPGタンク 1基 950t
アンモニアタンク 2基 1,100t
アスファルトタンク1基 3,800t
※保税蔵置場49基
- ローター出荷設備
12ステージ24車線
(他、アスファルト専用2車線・LPG専用3車線・アンモニア専用1車線)
- 危険物倉庫 2棟 873㎡
- 屋外貯蔵所 9カ所 1,454㎡

9

北海道の食産業の成長と輸出拡大に貢献する「次世代型冷蔵倉庫」

北海道クールロジスティクスプレイス（温度管理型冷凍冷蔵倉庫）は、立地、多温度対応、高付加価値化、鮮度維持等の

9つの特長を有しています。

産地型と流通型が中心の道内物流を補完する「港湾型」施設として新たな物流モデルを構築し、お客様の多様なニーズにお応えします。



クールロジスティクス事業部

北海道の食産業の成長と輸出拡大に貢献します

施設概要

北海道クールロジスティクスプレイス ※北海道HACCP認証取得

- 所在地 苫小牧市弁天1番45
- 規模 敷地面積28,441㎡ 建築面積4,144㎡ 延床面積14,738㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、地上5階建
- 収容能力 20,200t（うち冷蔵7,500t、冷凍7,700t、冷凍・冷蔵切替5,000t）
- 対応温度 冷蔵0～10℃、冷凍-38～-25℃、冷凍・冷蔵切替-25～10℃
- 省力化設備 自動温度制御、自動倉庫、移動ラック、IT活用等
- 省エネ・環境対策 外断熱工法、自然冷媒機器（二酸化炭素、アンモニアを使用）等
- BCP対策 耐震II類、津波避難場所機能、免震装置、非常用発電機等

※動物検疫所指定畜産物輸入検査場所

※保税蔵置場合計面積 16,810㎡

勇払冷蔵庫 ※北海道HACCP認証取得

- 所在地 苫小牧市勇払148番地20
 - 収容能力 3,536t
 - 対応温度 冷凍-25℃
- ※動物検疫所指定畜産物輸入検査場所

勇払1号倉庫

- 収容能力 低温庫4,485㎡
常温庫1,495㎡
- 対応温度 低温庫10～15℃



9つの特長をご紹介します

①「空」と「海」のWポートを活用できます

新千歳空港にも近く、空港と港湾の両方のポテンシャルを活用することができる苫小牧東港に立地し、低コストな海上輸送やスピーディーな航空輸送など食産業の多様化する物流ニーズにお応えします。

②多温度対応の大型複合施設です

-38℃～+10℃までに対応した多温度対応施設として農畜水産物の生鮮品から加工品まで幅広い需要にお応えします。

③CA貯蔵で付加価値を向上します

鮮度保持機能が極めて高いCA冷蔵庫で長期保管することにより、市場環境を踏まえながら最適なタイミングで出荷することで付加価値を上げることが可能となります。

※CA貯蔵⇒Controlled Atmosphere(空気成分調整) 空気中の酸素、窒素、二酸化炭素濃度を調整することにより、貯蔵される農産物の呼吸を最小限に抑制し鮮度の低下を抑える。



④急速凍結で品質を落とさず保管します

-38℃の急速凍結庫を利用することで、食品の水分が氷に変わるマイナス5℃からマイナス1℃の最大氷結晶生成温度帯を30分以内に通過することで食品細胞の破壊が少なくおいしさを保持することが可能です。



⑤立体自動倉庫で小ロット多品種に対応します

1階から4階まで吹き抜けの立体自動倉庫は最大1,388パレット分の貨物を保管し、ITシステムで管理することで省力化を実現し、小ロット・多品種へ対応します。



⑥分散保管による災害対応機能の強化

台風や地震等の物流網を寸断する災害に対しても、港湾における分散保管は強みを発揮します。更に、十分な耐震性能と非常用発電機を有し、港湾地域の津波避難場所としての機能も担い、港湾BCPの向上に貢献します。

⑦省エネ・環境対応を先導します。

外断熱、自然冷媒機器（二酸化炭素、アンモニア使用）を導入し最先端のハードとソフトを組み合わせた省エネ・環境配慮型施設です。

⑧貨物のセキュリティとコンプライアンス体制が整備された施設です

当施設は、特定保税承認者制度における届出保税蔵置場です。保税業務をはじめとする輸出入関連業務において、お客様に信頼されるサービスの提供に努めます。



⑨食の安全を徹底します

当施設は、倉庫業者として初めて「北海道HACCP自主衛生管理認証制度」を取得しました。食の安全に万全を期して、道産食品の安全性確保と信頼向上に努めます。



地域・社会への貢献

1 公民連携の危機管理 (本社ビル、北海道クールロジスティクスプレイス)



大規模災害発生時には、苫小牧港に隣接する行政機関、企業が相互に連携、協力し、港湾機能の維持、早期回復に努めなければなりません。当社は港湾BCPを先導する企業として、公民連携の危機管理に取り組んでいます。本社ビルと北海道クールロジスティクスプレイス(温度管理型冷凍冷蔵庫)は、災害時に防災拠点として活用できる機能を有した施設です。

施設の特徴は、①非常用発電設備、受水槽、衛星電話、避難スペースなどのBCPに対応した設備を有していること、②建物の強度が地震・津波等の複合災害にも対応していること、③躯体の断熱性が優れていること、④省エネ設備機器を設置した環境に配慮した施設であることです。両施設は、地域の防災拠点としての役割を担うことが可能な「防災拠点機能」が充実した施設です。

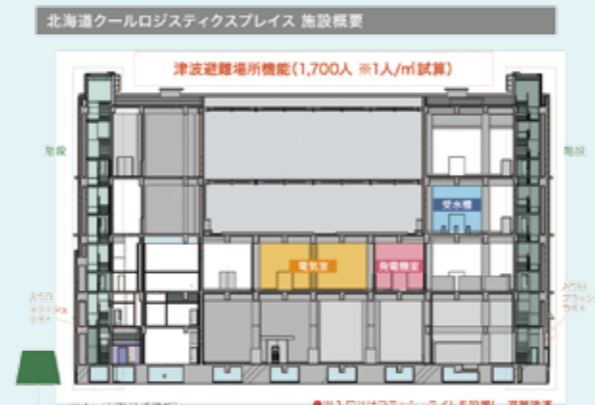
「津波一時避難施設としての使用に関する協定」の締結

苫小牧市との間で、「津波一時避難施設としての施設の使用に関する協定」を締結しています。この協定は、津波発生時に地域住民ならびに港湾で働く皆様に本社ビル、北海

道クールロジスティクスプレイスを一時的な避難施設として使用していただくことを内容とするものです。



本社ビル：4階避難広場および屋上



北海道クールロジスティクスプレイス：屋上

「大規模災害発生時における相互協力に関する協定書」の締結

苫小牧海上保安署、苫小牧港管理組合、当社の3者で「大規模災害発生時における相互協力に関する協定書」を締結しています。これは、大規模災害が発生し、又は発生する恐れのある場合など、緊急時やむを得ない事態において、海上保安署庁舎の機能維持が困難になった場合、海上保安業務および災害応急対策を迅速かつ円滑に実施するために、当社本社ビルを使用することを目的とした3者による協定です。



2 「みなとSDGsパートナー登録制度」への登録

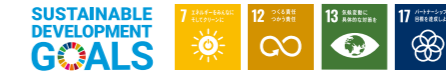


「みなとSDGsパートナー登録制度」とは、港湾関係企業等によるSDGsの普及促進と達成に向けた取組の更なる推進を図り、ひいては我が国港湾及び港湾関係産業の魅力向上と将来にわたる持続的な発展に貢献するために創設されたものです。当社は、かかる要件を満たすと認められ登録されました。「物流イネーブラーとして地域・社会に貢献します。」を経営理念とし、事業活動を通じて社会

的課題の解決やSDGs達成に貢献します。当社は、2030年のSDGs達成に向けて「経済、社会、環境」の三側面の観点から統合的な取組として、「CO2排出量削減」、「有給休暇取得率向上」、「安全第一の事業運営の継続」に関する目標を定めました。今後とも、事業活動を通じて社会的課題の解決やSDGs達成に貢献してまいります。

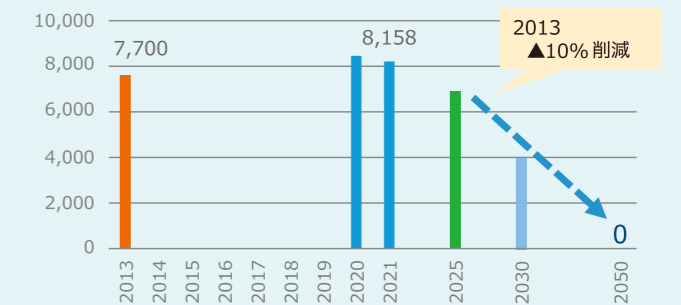
3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標
環境 経済	CO2排出量削減	下記3と同様
社会 経済	有給休暇取得率向上	有給休暇取得率(全社員の有休取得日数合計÷全社員の付与日数合計×100%) 【現状】56%(2021年度実績) 【目標】70%(2030年度目標)
社会	安全第一の事業運営の継続	重大労働災害(=死亡事故)発生件数ゼロを継続する。 【現状】0件(2021年度実績) 【目標】0件(2030年度目標)

3 自社のCO2排出量削減



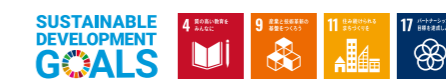
カーボンニュートラルへの社会的要請に応えるため、省エネ設備の導入、車両のEV化をはじめとしたエネルギーの使用効率の改善に加えて、太陽光発電や再生可能エネルギーの利用拡大、新燃料の取り扱いなどにより、2025年時点のCO2排出量を2013年度比で10%削減、その後は電力会社の電源多様化・系統拡充の状況に応じて取り組みを深化、2050年に当社単体でネットゼロを目指します。

CO2排出量の推移イメージ(t-CO2/年)



- 2025年度 10%削減
 - LED照明100%導入、連絡車の(更新時)EV化 ●自社太陽光発電、再生可能エネルギー拡大
- 2050年度 ネットゼロ達成
 - 既存取組の更なる加速 ●技術革新に応じたリフト・トラックのZEV化・バイオ燃料の活用 ●カーボンオフセットの活用
- 連結子会社の取組み
 - 大北運輸や戦略プロジェクトの事業化による連結子会社の脱炭素化も積極的に推進

4 地域への貢献



地域に根ざした企業として、地域社会への貢献、活性化に取り組んでいます。



市民おどり
毎年夏に開催されるとまこまい港まつりでは、市民おどりパレードに参加し、地域との交流を図っております。



交通安全啓蒙活動
苫小牧港はフェリーやRORO船の発着が多く、乗下船するための大型車両の交通量も多い地域です。当社では、年に数回季節ごとに各事業所でトラックドライバーに向けた交通安全啓蒙活動を実施しております。



クロスアイス大会後援
株式会社レッドイーグルス北海道が主催する「レッドイーグルス北海道クロスアイス・チャレンジマッチ」を後援しています。クロスアイスは、試合の機会が少ない低学年層向けの競技で、アイスホッケーの楽しさや技術の向上を目的とし、近年注目されております。



大学での講義
市内外の大学向けに物流業界や当社が担う役割などを講義の中で紹介し、人の生活や企業活動を支える重要なインフラとしての機能を持つ物流の重要性に触れていただくきっかけを作っています。

会社概要

商号	苫小牧埠頭株式会社	主要株主	株式会社日本政策投資銀行 王子ホールディングス株式会社 苫小牧市 苫小牧港開発株式会社 日本通運株式会社 ホクレン農業協同組合連合会 全国農業協同組合連合会
本社	北海道苫小牧市入船町3丁目4番21号	関係会社	北海道クールロジスティクスプレイス株式会社 大北運輸株式会社 苫埠資産管理株式会社 石狩地域振興開発株式会社
設立	1960年(昭和35年)5月10日	主な出資会社	苫小牧サイロ株式会社 苫小牧国際コンテナターミナル株式会社 苫東共同港運倉庫株式会社
代表者	代表取締役社長 海津 尚夫	主な事業内容	倉庫業/冷蔵倉庫業/港湾運送業/貨物自動車運送業/通関業/穀物サイロ事業(貯蔵・加工)/石油及び関連製品の貯蔵・輸送業
資本金	8億7,612万円	主な許認可事業	倉庫業(普通・冷蔵)/倉庫証券発行/一般港湾運送事業/港湾荷役事業(沿岸荷役事業)/港湾運送関連事業/一般貨物自動車運送事業/第一種貨物利用運送事業(貨物自動車運送)/第一種貨物利用運送事業(外航海運)/第二種貨物利用運送事業(内航海運)/海運代理店業/海運仲立業/通関業/保税蔵置場
従業員数	319名(2023年4月1日現在)		

沿革

1960年 5月 設立(5月10日)
 1963年 9月 「一般港湾運送事業」「沿岸荷役事業」の免許取得
 1963年 10月 「倉庫業」の許可取得
 1963年 11月 営業開始
 1964年 5月 「海運代理店業」「海運仲立業」「海上運送取扱業」の開始届出提出
 1966年 11月 「倉庫証券発行」の許可取得
 1967年 7月 政府米保管倉庫指定を受ける
 1969年 7月 「内航運送取扱業」の許可取得
 1970年 9月 「通関業」の許可取得
 1970年 10月 「港湾運送関連事業」の開始届出提出
 1970年 11月 「一般貨物自動車運送事業」の免許取得
 1970年 12月 穀物サイロ事業営業開始
 1971年 3月 自動車運送事業営業開始
 1972年 7月 東京支店(現 東京営業部)を開設

1974年 8月 オイルターミナル事業営業開始(苫小牧)
 1975年 8月 備蓄用サイロ指定を受ける
 1979年 2月 「第一種貨物利用運送事業(貨物自動車運送)」を登録
 1991年 8月 八戸営業所(現 八戸支店)を開設
 1996年 10月 石狩オイルターミナルを開設
 2004年 10月 「冷蔵倉庫業」の許可取得
 2006年 3月 グリーン経営(トラック事業者用)認証取得
 2006年 4月 東北支店(現 仙台支店)を開設
 2010年 5月 創立50周年を迎える
 2012年 8月 「第一種貨物利用運送事業(外航海運)」を登録
 2015年 3月 本社移転
 2017年 5月 「認定通関業者」の認定を受ける
 2020年 5月 クールロジスティクス事業営業開始
 2023年 5月 「特定保税承認者」の承認を受ける

事業所所在地

北海道



港運事業部 石狩支店

〒061-3241 北海道石狩市新港西2丁目744番2
 TEL 0133-74-6161 FAX 0133-73-5558

オイルターミナル事業部石狩ターミナル

〒061-3242 北海道石狩市新港中央4丁目2番地2
 TEL 0133-64-6161 FAX 0133-64-5252

港運事業部 千歳支店

〒066-0075 北海道千歳市北信濃849番地8
 TEL 0123-22-6161 FAX 0123-22-8333

港運事業部 帯広支店

〒082-0004 北海道河西郡芽室町東芽室北1線12-12
 TEL 0155-62-7171 FAX 0155-62-7070

本社

〒053-8511 北海道苫小牧市入船町3丁目4番21号
 ハーバーFビル
 TEL 0144-33-6161(代) FAX 0144-33-3699(代)

港運事業部

〒0053-0002 北海道苫小牧市晴海町43番地53
 TEL 0144-57-6161(代)

飼料サイロ事業部

〒059-1372 北海道苫小牧市勇払145番地213
 TEL 0144-56-2266(代) FAX 0144-56-1889(代)

オイルターミナル事業部苫小牧ターミナル

〒059-1373 北海道苫小牧市真砂町18番地1
 TEL 0144-56-1133 FAX 0144-56-1277

クールロジスティクス事業部

〒059-1371 北海道苫小牧市字弁天1番45
 TEL 0145-26-8250(代) FAX 0145-26-8301(代)

東京営業部

〒100-6031 東京都千代田区霞が関3丁目2番5号
 霞が関ビルディング31階
 TEL 03-3595-1171 FAX 03-3595-1178

